

平成26年度みえの現場・すこいやんかトーク（大台町）の概要 【速報版】

8月2日（土）に大台町でみえの現場・すこいやんかトーク 市町編（大台町）を開催しました。

当日は、「大台町苗木生産協議会」の皆さん8名にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

（「大台町苗木生産協議会」の活動内容紹介）

○地域に植栽する地域性苗木の採種から販売までを一貫して行っており、企業や土地改良区などたくさんの方に利用していただいている。また、福祉施設とも連携し、障がいのある方が働く場を提供している。

※地域性苗木とは：大台町内の山林の自生種から採取された種子、稚樹で育苗された苗木。

Q. この活動に参加して良かったこと、嬉しかったことはどんなことですか？また自慢話はありませんか？

○私は家に孫と92歳のおばあさんがいるため外で働くことができず、家でできることと言っても畑はサルやシカの被害が多い。そういった中で苗木生産協議会に参加して収入を得られて助かっている。今後もこの活動を続けていければと思う。

- 成果はなかなか目に見えてこないが、森林の環境保全という大きなことのために協力しているという誇りを持てる。
- 花粉症が問題になっているが、苗木を植えて雑木林が増えたら花粉症をなくすことができるのではないかと考えてやっている。また、お小遣いが増えたことも嬉しい。
- 今年初めてお金をいただいたが、年金生活なので苗木の仕事で年金とは別に収入を得ることができ、張り合いが出た。もっと真剣に取り組もうと思う。
- 苗木を作ることは下流域では水源の問題もあり難しいと思うので、育苗はこの地域ならではの活動である。そういう活動に携われるのは嬉しい。
- 役場の方、森林組合の方に、障がい者の雇用の話を持ってきていただき、いい話をいただいたと思っている。環境のためもなるし、収入も安定する。
- 最初は事務局主体で進めていたが、だんだん皆さんやる気を出して自ら積極的に活動されるようになり、苗木に対する思いが強いことを肌で感じる。
- 企業の森など苗木を植えていただいた場所を通ったとき、苗木が大きくなっていく姿を見ると災害を受けた山が元に戻ればという夢が膨らんでいく。
- 当初は町からの助成を3年ほど受けていたが、順調な作業ができるようになって今年は相当な収入が上がり、なんとか自立してやっていける協議会になった。このまま続けていけたら良いと思う。

Q. この協議会を将来的にこうしていきたいという夢は？

- 65歳で定年になった人がこの仕事をやっていけるように、収入の安定化を図り、今後に繋げていきたい。
- 大台町は林業が基幹産業であるが、シカの問題や地形的に常に災害の危険に晒されていることから緑化が必要である。協議会を通じて地域の環境を守り、経済的な効果、福祉的な効果も含め、地域全体が活性化していくように頑張っていきたい。
- 障がい者の方と連携した取組については始まったばかりだが、障がい者の方に苗木づくりを通じて働く場所を提供できれば、私たちとしてもありがたいと思っている。

Q. 活動を進めるにあたっての課題に関する意見や行政に対する要望等はありませんか？

- 日当たりなど苗木の生育環境の違いにより、会員12名で苗木の育ち方がまちまちなので、苗木を使ってもらうためにも品質を統一することが課題である。
- 苗木を植える場所はたくさんあるが、企業も予算的なこともあり毎年植樹をするわけではないので、三重県でこの苗木を植栽できるような予算を確保してほしい。
- 協議会の営業力不足が課題である。当協議会の苗木は県内のどこに植えても地域性苗木として通用すると思うので、知事から地域性苗木生産の趣旨や重要性について広くPRしてほしい。
- 大台ヶ原はシカの害などから木が無くなっている。山が荒れると川が荒れ、最終的には漁業にまで影響するので、なるべく早く大台ヶ原の再生をお願いしたい。

【知事の発言】

- 三重県では農福連携で水耕栽培や水福連携として水産業について障がい者の皆さん

に手伝ってもらい、働く場を提供している。林業でも連携できないかと考えていたが、苗木生産に関しても連携してもらい、障がい者の皆さんの働く場が増えるのはありがたい。

- 障がい者の雇用に関して企業ではやってもらう仕事がないと言われることが多いが、大台町苗木生産協議会のように仕事をうまく切り分けることにより、障がい者の方にもできる仕事をつくりだすことは大切である。
- 協議会の自立というのは大変重要なことである。他の団体でも財務基盤の弱さが活動のネックになっていることが多いが、この協議会では自立させていくという強い思いを持ち、実際に成果を出していてすごいと思う。そういうコツがいろんなところへ伝わっていくと良いと思う。
- 地域性苗木生産の趣旨や重要性を多くの人に知ってもらい、地域性苗木を使う活動が広がっていくようなお手伝いはさせてもらいたい。
- 大台ヶ原の再生に関しては県でも獣害対策の関係で平成24年度から生息環境回復に向けた取組を行っており、しっかり進めていきたい。



【「大台町苗木生産協議会」の皆さん】とは

「大台町苗木生産協議会」は、皆伐後の未造林地の増加や災害による崩壊地の発生により周辺住民から緑化を求める声が高まる中、大台町広報誌での公募により、平成20年3月に15名で設立された。現在は12名の会員、事務局（宮川森林組合）、福祉施設（ジグソー工房）で構成されており、今回はこの協議会の構成員と知事とがトークを行いました。